

## 波乱万丈の2011年

第1期OB 柳川 政人

小野ゼミ10周年、心よりお祝い申し上げます。10周年の節目のOB会誌に執筆出来ること、光栄です。また、更なる小野ゼミのご発展を祈念しております。

当方、転職、人事異動の兼ね合いで、現在勤務する会社が3社目であることや自分自身が社会人何年目かを余り考えずに毎日を過ごしている為、10周年と聞き、「あの辛い!?日々はそんな前のことなのか～」と感情深くなる今日この頃です。最近、回りでは私の“アラフォー疑惑”が出回っており、本当はもっと昔のことなのかかもしれません。

さて、東日本大震災は皆様にとって2011年の衝撃的な出来事であったことは間違い無いでしょう。当時の様子を振り返ると、改めて大変な出来事であったと感じると同時に、この様な想定外の事態に対して、社会的にも、個人的にも危機管理がなされていないことに不安も感じました。

2011年が普通の年にはならないと震災の2ヶ月程前に、私は感じていました。その予兆が祖父の他界です。大阪に住む祖父を11月末に見舞ったのが8年振りの再会であり、最後のお別れとなってしまいました。9月から体調を崩していた祖父の余命は持って年内だろうと両親から聞かされていましたが、年明けまで頑張ってくれたのは12月7日のひ孫の誕生を誰よりも待ち侘びていたからかも知れません。ひ孫を抱かずして、祖父を他界させてしまったことは、“おじいちゃんっ子”であった私にとって唯一の心残りです。

12月の長男誕生の喜びと祖父の他界からの後悔を胸にスタートした2011年でしたが、2月に更なる展開が私を待ち受けていました。それはシンガポール異動の内示でした。海外転勤が比較的多い会社に勤務していますが、海外転勤の際は内々示があるものと思っていました。ですが、実際は全く予告無しに着任1ヶ月前の内示でした。当然ながら、この段階で海外転勤の備えなど、私達には全くありませんでした。私は複雑な心境で、家族の慣れない異国での生活を思うと、全く喜べない内示でした。

ですが、会社の決定事項である為、内示を拒否することも出来ず、また、着任までの時間も無い為、妻に言い聞かすと同時に、自分自身にも言い聞かせ、慌てて準備を始めました。この際、息子の育児への備えを最重要視したのは言うまでも無く、大人の生活に関しては、幸いにも比較的不便の無い南国への異動であることから最低限に済ませることにしました。

ここまでは良くある海外転勤前のバタバタ話ですが、私は更なる問題を抱えてしまいました。それは、2012年4月竣工のマンションの契約を済ませたばかりだったということでした。海外転勤となる旨、マンション販売会社の担当に打ち明け、担当の方を介して融資承認が下りていた金融機関に相談した所、引渡し時に住民票をマンションに移さない限り、居住目的とは見なされないため、住宅ローンの対象にはなら



同期の結婚式にて、著者は中央

ないとの回答を受け、マンション売買契約を済ませたもののローン契約が出来ないという想定外の事態が明らかになってしまったのでした。国内の転勤であれば、住民票だけマンションに移すという小細工が可能ですが、外地ではビザの関係からこの小細工は通用しません。某都市銀行のローン担当は私に不法滞在を勧める理不尽な説明を繰り返したため、私は苛立ちから電話で罵倒したこともありましたが、他行からも住宅ローンとしての取り扱いが難しいとの回答しか得られませんでした。

こうして時間だけが過ぎ、焦りを感じ始めた3月11日、あの震災が発生しました。その晩、会社からは社屋に留まることを推されましたが、心情的にとっても会社に泊まる気にはなれませんでした。何が起こるか予測不能だった為、一刻も早く自宅に戻ることが先決と考えて、総務の制止を振りきって、徒歩で自宅へ向かいました。自宅に戻ったのは5時間後でした。不安を隠せない妻と事態を理解出来るはずの無い息子が笑顔で私を迎えてくれました。その数時間後、帰宅する術を失った父も我が家に泊まることとなり、不安の中でも幸せを感じる事が出来ました。

ですが、震災の翌日以降、震災の影響から物流が麻痺した為、転勤に備えた子供のミルク、離乳食、おむつの購入計画に加えて、シンガポールに出発するまでに必要なミルク用の水も入手困難な状況に陥りました。震災による社会の混乱は金融機関にも及び、私達はマンションのローンに関して半ば諦めムードになりました。

そんな混乱の中、一生忘れることの出来ない喜ばしい出来事がありました。私達はありとあらゆるコンビニ、スーパー、自動販売機をチェックする毎日を繰り返し、子供のミルクの材料として欠かせないミネラルウォーターをコツコツと購入していました。すると、物流が回復し始めた頃、自宅に宅配便が届きました。その中身はミネラルウォーターでした。日本各地の親戚、友人が自宅に在庫してあった水やスーパーで箱買い出来た水を送って下さったのです。赤ちゃんのミルクの為ならと、我が子の為に貴重な水を送って下さったのです。なお、妻と息子が当初予定していた5月から4月末にシンガポール行きを前倒したこともあり、日本全国から集まったミネラルウォーターは柳川家にて在庫過多となった為、その一部は

4月に第一子が誕生した第1期OBの中嶋家に渡ったことを付け加えておきたいと思います。

限られた時間、物資ではありましたが、復興を合言葉に立ち上がった日本は徐々に機能を回復させ、幸いにも私達はシンガポールでの息子の育児に必要なものを何とか調達し、ローン契約以外の準備は整いつつありました。そんな折、悩みの種であった住宅ローン問題が進展しました。3月10日に仕事の延長線でご紹介頂いた某都市銀行の支店長代理の方からお電話を頂いたのです。3月22日のこと、震災や社内システム障害で問題を抱えていたにもかかわらず、10日に社交辞令ともとれる「何とかしましょう！」と仰った一言を、有言実行して下さいました。こうして4月1日、ついに銀行から住宅ローン契約の正式承認が下りました。シンガポールに発つ直前の最終営業日でした。

支店長代理を紹介して下さいました当時の私の上司、支店長代理、ローン契約担当といった、この“住宅ローンドラマ”に関わった全ての人が、偶然にも“慶應義塾大学”出身者でした。私の住宅ローンは特別に役員稟議を通して頂いて承認されたそうですが、その担当役員も“陸の王者”であったとのこと。私は“慶應”に救われたのでした。

こうして住宅ローン問題を解消した私は、バタバタとシンガポールに渡りました。シンガポール着任後の今もバタバタとしてはおりますが、出国前の1月から3月までのバタバタは今とは比べものにならないくらいで、シンガポールライフを楽しんでいるといえるかと思えます。シンガポールを一番満喫しているのは、12月7日に1歳を迎えた愛息子の大河かもしれません。

出国前のバタバタ劇の主役を演じた住宅ローンのマンションも竣工が一月早まり、この3月に引き渡しとなります。実際に住むのはシンガポールから帰国した後になりますが、夢のマイホームの鍵を受け取るために日本に一時帰国するのが楽しみです。ですが、シンガポールの現自宅の専有面積は日本の1.5倍有りますので、数年後の日本帰国の際、息子に「せま〜い」と言われたいか、今から心配です。

そう、余談ですが、シンガポールでの私の上司も、偶然にも“慶應義塾大学”出身です。



転勤先のシンガポールにて、マーライオンと著者と御愛息